

HDS025-12

会場:103

時間:5月22日 12:30-12:45

## ヒマラヤの氷河湖の形成条件に関する研究 Study on the formation condition of glacial lakes in the Himalayas

坂井 亜規子<sup>1\*</sup>, 藤田 耕史<sup>1</sup>, 田殿 武雄<sup>2</sup>, 縫村 崇行<sup>1</sup>  
Akiko Sakai<sup>1\*</sup>, Koji Fujita<sup>1</sup>, Takeo Tadono<sup>2</sup>, Takayuki Nuimura<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 名古屋大学環境学研究科, <sup>2</sup> 宇宙航空研究開発機構  
<sup>1</sup>Nagoya University, <sup>2</sup>Japan Aerospace Exploration Agency

ヒマラヤでは氷河の末端に多数の氷河湖が存在している。それら氷河湖は 1950、60 年代に拡大を開始し、氷河湖決壊が危惧されている。

これまで氷河湖の形成条件に関し、傾斜が 2 度以下で小氷期に形成されたラテラルモレーンと現在の氷河表面との高度差が平均で 60m 以上の氷河に氷河湖が形成されるという事実を地形図や測量結果から明らかにしてきた。本研究では衛星だいちに搭載された ALOS/PRISM(Advanced Land Observing Satellite/ Panchromatic Remote-sensing Instrument for Stereo Mapping) センサーから作成された高精度の数値標高データを使用して地形図の無いブータンの山岳地域においても解析を行ったところ、同じような氷河湖の形成条件が得られ、さらに氷河の傾斜が緩いほど、小氷期からの表面低下が大きい傾向にあることがわかった。

発表ではこれらの解析結果に関して、氷河の融解過程などから考察する。

キーワード: 氷河湖, 氷河, モレーン, 消耗

Keywords: glacial lake, glacier, moraine, ablation